

韓国公営放送局KBSによる日本の魅力発信 ～第1回—青森取材レポート～

クレアソウル事務所

韓国では、日本に対する関心は高いものの、微妙な日韓関係を背景として、マスコミで日本を真正面から取り上げるのはやや難しい面もありますが、今回、ソウル事務所では地方自治体と協力し、韓国人観光客の誘致を図ることを目的に、韓国の公営放送局の韓国放送公社（KBS）が放送する教養情報番組「生情報通」（毎週月～金、19:10～放送）内で日本の地域の魅力を発信する番組の制作協力を行いました。

韓国では日本の地域の情報が十分知られているとは言えないので、よい機会になったと思います。

番組制作は、放送作家が台本を作成し、その台本をもとに現地でプロデューサー1名がカメラを片手に取材・撮影を行うというもので、台本作成までの取材先の調査・情報提供・協力依頼、現場での案内・通訳、編集時の翻訳が主な協力内容でした。

韓国では100年以上続く歴史のある店が少ないことから、「日本の100年続く店の秘密」をテーマとし、1つの地方自治体で、6つのアイテムを約6日間かけて取材したいということでしたが、単に「100年以上続いている」ということだけでなく、特別な特徴があり、派手でインパクトのある映像を撮影できなければ視聴者の興味を引くことができないということや、同じアイテムを二度は使えないこと等で取材先選びには大変苦労しました。

また、取材内容についても、例えば、食堂を取り上げる場合は、食材の仕入れ元の取材から、仕入れ、調理場の様子、店主やお客さんへのインタビューはもちろん、さらにその食堂の街の評判まで、その食堂の全てを取材・撮影するといったもので、対応していただけた店があるのかどうかの不安もありました。

そういった難しいテーマと取材内容、1箇所の撮影に4時間以上を必要としたなかで、各地方自治体には、取材先への協力依頼や調整、現場での制作側からの急な要望にも積極的に対応していただいたおかげで、当初10分だった放送時間が13分になり、制作側から良い映像が多くて編集に苦労したという話も出たほどです。

番組制作協力というソウル事務所初めての事業で、韓国番組制作のルールや仕組み等分からないことばかりで苦労も多くありましたが、第1回の青森県が6月28日と7月5日に無事放送されました。

なお、熊本県と鹿児島県の撮影も終了し、7月12日から毎週月曜日に各2回放送される予定です。

【青森県取材レポート：観光第2チーム調査員 朴恩瑩】

■6月14日～20日の7日間、マスコミを活用した日本の地域の魅力発信の事業としてKBSの取材に同行することが決まったときには、仕事の心配よりは青森に行けることの嬉しさが大きかった。

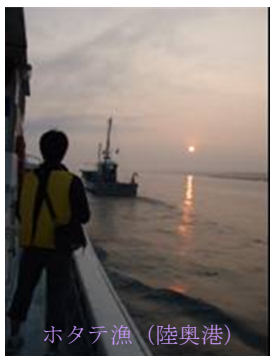
しかし、マスコミとの仕事がまったく初めての私には初日から難関をどう乗り越えればいいのかのことで頭を悩ませた。

美しい夕日を目当てにたくさんのお客さんが訪れる不老不死温泉の露天風呂。その日、雲が厚くかかっている太陽が顔を見せようとしなかった。また、プロデューサーはインタビューだけではなく海辺を散歩する様子の演出を求めているが、温泉を楽しみにきたお客さんに無理はいえない。そんな中、青森県職員の方にがんばっていただき、何とか登山帰りの若い2



不老不死温泉

人組をお願いして撮影することができた。また、突然、奇跡のように雲の隙間から太陽が見えて何とか沈む直前の映像を撮影することができた。こんなトラブルや奇跡がずっと続いた1週間だった。



ホタテ漁 (陸奥港)

■ 4代目と5代目の息子さんが経営している津軽そば「三忠食堂」、朝4時半に船と一緒に乗せてもらい撮影したホタテ漁、3代目のホタテ料理が人気の「松浦食堂」、300年以上も歴史を持つヒバの香りがステキな「酸ヶ湯温泉」、300年以上の歴史を持つ調理場初公開の和菓子屋「大阪屋」、途絶えた歴史を復活させた五所川原の「立佞武多」、伝統を守っていく「若手三味線演奏者」などを撮影した。



津軽そば (三忠食堂)



若手三味線演奏家

また、青森のシンボルでもあるリンゴをテーマとしたリンゴ風呂の「アップルランド」、夕日の美しい「不老不死温泉」、青森の有名お祭りがいつでも体験できる「青森屋」などの温泉、奥入瀬渓流や燕島など観光地も撮ってまわった。



五所川原立佞武多

■ たくさんの青森県民に助けをもらい、撮影の1週間後に1本目が無事に放送された。撮影を間近から見た私としてはとても感激した。1回13分ほどの紹介で少しでも青森のことに興味を持つ韓国人が増えたらと思っています。